



十三大橋 大阪市の中心部、中津と十三を結んで1932年に淀川に架橋された鋼プレストリブタイドアーチ橋。設計は戦前に、白髭橋や尾張大橋、長浜大橋など全国で70もの橋を設計した、「橋の天才設計者 増田淳」の手による。リズムカルな5連のアーチも美しいが、注目ポイントは、かつて工場の街だった十三をイメージして、機械の歯車をモチーフに、アールデコ調のデザインが施された橋門構。高欄や親柱にも、同様にアールデコ調の透かしパネルが付けられている。国内では他に例を見ない。とてもモダンでオシャレな橋である。



大阪市北区・淀川区 鋼プレストリブタイドアーチ橋 1932年
L=681.2m (64.0m) 【淀川】



二河橋 昭和に入ると、鉄筋コンクリート桁橋は、ゲルバー構造の設計手法が導入され支間長が伸ばせるようになったことなどから、施工数が飛躍的に増えた。その中で装飾性の観点から、国内の頂点に位置するのが、1932年に呉市中心部を流れる二河川に架橋された鉄筋コンクリートゲルバー桁橋の二河橋である。花崗岩造の巨大な親柱、花台、高欄。花崗岩でアーチを縁取ったラーメン橋台。橋全体が、アールデコで彩られている。東京や大阪に架けられた橋をも凌ぐ装飾性。当時の軍都呉の隆盛が感じられる一橋である。



広島県呉市 RCゲルバー桁橋 1932年
L=54.0m (21.0m) 【二河川】



太田川大橋 太田川大橋は、広島市の太田川放水路の河口に2014年に架橋された。PC連続ラーメン箱桁を鋼アーチで補剛した複合構造。アーチは角形鋼管でトラスを組んだ単弦のプレストリブで、鋼管内には道路橋で初めてコンクリートを充填した。橋梁形式は、国際デザインコンペ（橋梁では国内唯一）で選定された。コンペ時には、隣接する広島西空港の存続も考慮されていたため、空域制限からアーチライズは低く抑えられ、このため、河口に架かる橋としてゲート性がありながら巨大すぎることはなく、周囲の風景とうまく調和している。



広島県広島市 鋼コンクリート複合アーチ橋 2014年
L=412.5m (116.0m) 【太田川放水路】



青雲橋 青雲橋は、徳島県三好市の伊予川に架かる自碇式PC複合トラス橋。PC吊床版橋は、水平反力を橋台背面のグラウンドアンカーで取ることが多いが、アンカーは土中のため経年劣化を目視できないという弱点があった。青雲橋は、下弦をPC吊床版で架設した後に、鋼製のトラス部材を立ち上げ、その上にPCの上弦（床版）を設置し、下弦と上弦を剛結した後にアンカーとの縁を切って自碇式の複合トラス橋にした。地中に隠れた部材がなく、目視点検が可能になった。2004年、日本で初めて国際コンクリート連合の最優秀賞を受賞した。



徳島県三好市 自碇式PC複合トラス橋 2004年
L=97.0m 【伊予川】



大宮橋 大宮橋は、四国山地の最深部、石鎚山の登山口付近に1927年に架橋された鉄筋コンクリートアーチ橋である。橋を渡ると道は1kmで行き止まる。昭和の初め、この道は高知へ通じる幹線道路として計画されたが、国道194号との争いに敗れ事業は頓挫。もし全通すれば、この橋は愛媛の南の玄関口になるはずだった。また当時の愛媛県庁は、鉄筋コンクリートアーチ橋では、東京や大阪をも凌駕する国内のトップランナー。これらを聞くと、この山中に国内で最も瀟洒といわれるアーチ橋を建設した理由が腑に落ちる気がする。



愛媛県西条市 RCアーチ橋 1927年
L=42.9m 【賀茂川（支流西之川）】



南河内橋 南河内橋は、1926年に八幡製鉄所により、北九州市の河内貯水池に架橋された鋼レンティキュラートラス橋。横から見るとレンズに似ていることからレンズトラス橋とも呼ばれる。国内で初の施工事例で、戦前には他に群馬県に2橋（大渡橋、桐生橋）架橋されたが現存しない。近年人道橋が2橋架橋され、現在はこの橋を含めて国内に3橋架橋されている。一度見たら忘れられない個性ある外観である。橋門構にはアールヌーボー風のデザインがなされ、掲げられた橋名板もクラシックで風格がある。国指定重文。



福岡県北九州市 鋼レンティキュラートラス橋（ピン結合）1926年
L=133.2m (66.6m) 【河内貯水池】